

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	28 / 2010 / 45-46
タイトル	「八甲田山グダリ沼の自然」(会報 27 号)の反響
著者名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

「八甲田山グダリ沼の自然」(会報第27号)の反響

編集部

本会報第27号は特集号「八甲田山グダリ沼の自然」として発行された。配布も会員だけでなく公共機関や自然関係団体、研究者に贈呈し、さらに広く一般にも購読できるように配慮した。このような企画は初めてのことであることから、その意図、配布先、反響などについてまとめておくことにした。

1. 企画意図

編集者の意図をあらわした外部への送り状の文面を再録しておく。

「今回、特集号として取り上げたグダリ沼は八甲田山北麓高原にひっそりとたたずむ、宝石のように美しく輝く自然です。当会、「自然を見つめる『やぶなべ会』」は県立青森高校生物部OB会として1952年に創設され、郷土の自然について親しみ学んできました。その間、グダリ沼は1980年代のテーマとして調査活動が行われたところです。自然環境が負の方向への変貌が激しい昨今、この「宝石」を保全し十分な活用をはかりたいものと、昨年2009年の現状調査の結果を加えて、ここに特集号としてまとめたものです。



グダリ沼の魅力紹介
 青森高校の生物部OBとめた会報(第27号)Bで組織する「自然を見つめる『やぶなべ会』」(室谷洋司会長)は、八甲田のグダリ沼の自然について「こんなに多くの草花が見られる機会は、なかなかないのでは」と話していた。

座談会、記事、約300枚のカラー写真でグダリ沼の自然を紹介し、本文28頁には、「グダリ沼・田代湿原の植生・景観保全のための提言」も掲げました。また、巻末にはこの沼周辺で確認された植物・菌類・動物あわせて1173種の「生物リスト」を掲載しました。ご活用いただきますようお願い申し上げます。」

魅力や特徴を、会員らによる座談会などで紹介するとともに、周辺に分布しているオオタカネバフ、スギナモなどの植物のカラー写真を掲載している。

また昨年実施したグダリ沼の現状の調査結果、植物・菌類・動物あわせて1173種の生物リスト、植生・景観保全のための提言も載せている。A4判で81頁。国会図書館、県立図書館、弘前市立図書館などに寄贈した。「やぶなべ会」は郷土の自然に親しみ、学ぼうと1952年に設立され、会員は約350人。同会報の入手希望はメール info@yabunabe.or.jp

2010年3月
 自然を見つめる やぶなべ会 (第27号)

【図1】「陸奥新報」の紹介記事。(6月10日付、15面)

3. 「陸奥新報」と「東奥日報」の掲載記事

「陸奥新報」は6月10日付紙面に、「東奥日報」は7月28日付朝刊紙面にそれぞれ紹介記事を掲載した。全文を掲げた(図1,2を参照)。

4. 主な反響を抜粋すると……

贈呈を受けたかたや購入者から手紙をいただいた。次ぎに3通を抜粋して紹介する。

▼ 郷土を愛する中身の濃いもので、地方の研究者でなければできない素晴らしい内容です。どうか変な自然解説が多くて、がっかりすることが多い今日この頃ですが、「やぶなべ」に記された自然は、しっかりとした資料、やぶなべ会員だけでなく多くの方々にも読んでいただきたい内容です。感激しております。ただ一つ、母校に再び生物を愛する組織ができて、この素晴らしい流れがいつまでも枯れないようになることを心から祈念するものです。(県内在住自然関連研究者)

▼ 青高生物部OB会の健在振りに敬意を表します。本号は青森県の自然史のデータベースとしても貴重な存在だと思います。有り難うございます。(県内自然保護関連団体)

▼ 学術的な貴重な資料で、今後の当大学院での実習に役立たせていただきます。特に3頁の

「図1」のコンピュータ写真は欲しかった画像です。(中略)10年前に田代高原、田代湿原を調査したとき、「ここはおおよそ40万年前にできたカルデラの中に位置していること、北八甲田、南八甲田とも、その後この田代カルデラを突き破ってできた山群だ」と聞きました。「この田代カルデラより大きいカルデラは、阿蘇カルデラを除けばそうないこと」も。(中略)この図1の写真を見ていると十和田湖よりも大きいカルデラ湖が見えてきて、田代カルデラの存在に合点がいきます。植物写真などの自然紹介も、今後の環境省で行われます十和田八幡平国立公園の公園計画にとって大切な資料となることと思います。心からのお礼まで。(大学の自然関連研究者)



[図2] 「東奥日報」の紹介記事。(7月28日付朝刊、20面)